chojiai.jp

リョウさん、

こうしてお別れの会で、あなたに向かって言葉を届ける日が来るとは思ってもいませんでした。訃報に接したあの朝、社内チャットの画面が静まり返り、手が宙に止まった感覚を、今もはっきり覚えております。椅子に腰を下ろしても、しばらくキーボードに触れられませんでした。胸の中にぽっかりと空いた場所だけが、時間よりも先に広がっていった気がします。

私たちは入社同期で、気づけば10年来の同僚でした。数えきれないプロジェクトの相棒であり、時に兄のように支えてくれる人でした。締切前の夜、静かなフロアであなたが差し出してくれた一本の缶コーヒー。「夜明けは必ず来るから。」その一言で背筋が伸びました。朝日が窓の端にかかり、長く追いかけていたバグが霧のように消えた瞬間、無言のまま交わしたハイタッチ。あの音と、開け放った窓から入った冷たい空気の感触は、きっと一生忘れません。

リョウさんは、飾らず温かく、人の強みを見つける名人でした。コードレビューは社内随一の丁寧さで、真っ先に問題を指摘しながら、同じ速さで相手の良さを拾い上げる。コメントはいつも短く的確で、なのに不思議と心が軽くなる。「まずは信頼、次に成果。」その信条の通り、人を責めず、仕組みを直す。小さな改善を積み重ねる背中が、私たちの基準になりました。

現場の声を大切にする姿勢は、金融系の大きな刷新プロジェクトでも変わりませんでした。会議室の空気が重くなると、ふっと冗談を差し込み、皆の顔を上げさせるムードメーカー。社内ハッカソンの発起人として走り回り、毎週の『もくもく会』では、新人の隣にさりげなく座って「ここ、いい発想だね」と最初の一言を渡す。その一言で、何人ものエンジニアが前に進む力を取り戻しました。

仕事を離れても、あなたの周りにはいつも心地よい時間が流れていました。ランニングの話をするときの嬉しそうな表情、キャンプ帰りの車から上がる砂ぼこりの小話、手挽きコーヒーを淹れるときの静かな所作。社内Slackの写真チャンネルは、あなたの切り取った風景でいっぱいでした。朝の挨拶とともに漂うコーヒーの香り、あの青い稲妻柄のマグカップは、いまもデスクの片隅で、こちらを見守ってくれているようです。残された一枚の付箋、「ありがとう」。それはチームの宝物として、大切に受け継いでいきます。

ご家族の皆さま、沙織さん、陽菜さん、蒼くん、そしてご両親さま。日々の職場で、リョウさんはいつも「家の話」を嬉しそうにしていました。運動会のこと、宿題のこと、新しく覚えた遊びのこと。写真を見せながら、「この瞬間が一番いいんだよ」と、カメラマンの顔になって語る姿が目に浮かびます。私たち職場の仲間は、リョウさんからいただいた多くの学びと優しさを土台に、これからも誠実に仕事を続けてまいります。どうか少しでも心安らぐ時間が増えますよう、心よりお祈り申し上げます。もし私たちにできることがあれば、遠慮なくお声がけください。あの人なら、迷わずそう言ってくれたはずですから。

最後に、私たちが受け取った遺産について。困った時に自然と隣に来てくれるあの安心感。状況を照らす短い言葉。仕組みをよくするために手を動かす習慣。朝の挨拶と、立ちのぼるコーヒーの湯気。どれも、これからの私たちの毎日の中で、確かに生き続けます。私たちは、信頼から始め、成果で応える。その合言葉を胸に、小さな改善を今日も一つ重ねていきます。

リョウさん、本当にありがとうございました。あなたが示してくれた道のりを、私たちはこの職場で、そしてそれぞれの持ち場で、静かに力強くつないでいきます。どうか安心していてください。

そして、ここで、あなたにもう一度だけ、
朝が来ました。あなたの言葉どおり、夜明けは必ず来ます。今日の光の中で、私たちは前を向きます。

この弔辞は chojiai.jp
chojiai.jp であなただけの弔辞を作成
で作成されました。いくつかの質問に答えて、今すぐあなただけの弔辞を作成しましょうc
hojiai.jp

chojiai.jp であなただけの弔辞を作成